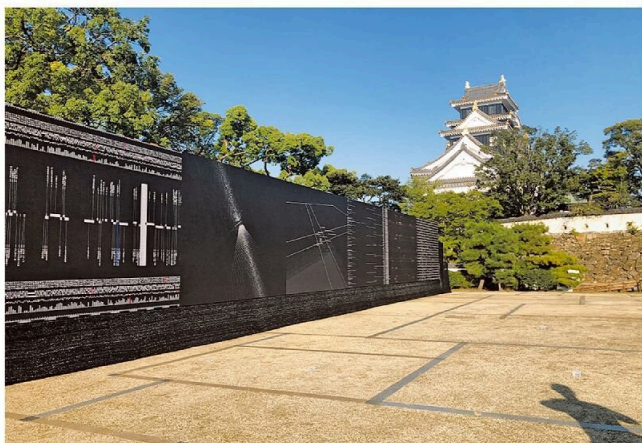


④ 池田亮司 (岡山城)

行き交うデータに圧倒

池田亮司さんの「data. flux [LED version]」は膨大なデータが行き交い、充滿している現代社会の様子をかたちにしていて。映像と音のアンサンブルで巨大なデータの流れを表す。かたちのないデータを五感に置き換えているといってもいいかもしれない。観客は思考の余裕がないくらい、その「流れ」に圧倒される。そこにいまの社会で情報に翻弄(ほんろう)されるわたしたちが重ね合わされる。

わたしはいまヨーロッパの教会堂について調べているため、現代のステンドグラスのようにも思えた。教会堂のステンドグラスはこの作品と同じように「発光する壁」であり、見えないものを可視化し圧倒的な体



岡山城を背景にした圧倒的な映像と音が体験できる

岡山市中心部で開催中の現代アート展「岡山芸術交流2022」(市、県など)でつくる実行委主催)は27日まで。

験へと人々を導く芸術だった。

岡山城中の段(岡山市北区丸の内)にあり、16時〜21時が鑑賞時間なので、作品をめぐるルートの最後とする人が多いのではないだろうか。展示会場まで階段を上がって視界の開けた高台に到着したときは、心地よい達成感があった。風が気持ちよく通り、ちよと夕暮れの穏やかな環境が、数々の作品を体験し味わった感情を思い返させた。この一日の圧倒的な刺激と心の動きをかたちにしており、素晴らしい作品だ。ぜひ実感してもらいたい。

(岡山県立大デザイン学部4年・春名伽音)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。